

幼稚園における2泊3日のキャンプに対する保護者の考え
 ～私立H幼稚園サマーキャンプを対象とした事例研究～
 知念 嘉史（東海大学）

I. はじめに

多くの幼稚園や保育所では、年中児（4～5歳）または年長児（5～6歳）に、園内および、園外の施設を使用して1泊ないし2泊の宿泊を伴う行事を「お泊まり保育」や「〇〇キャンプ」などと称して実施している。はたして、生後3年から6年間ほとんど親から離れる経験の少ない子どもたちが、2泊3日のキャンプを行うことを保護者はどのように考えているのであろうか。そして、2泊3日のキャンプは子どもたちにどのような影響を与えるのであろうか。

本研究は、幼稚園における2泊3日のキャンプを保護者がどのように考えているのか、意識調査を行い、幼稚園における2泊3日のキャンプの必要性や実施する際のポイントを明確にすることを試みた。

II. H幼稚園年長児サマーキャンプの概要

私立H幼稚園は、1973年に神奈川県伊勢原市に開園した。1976年度から30年に渡って園外の施設で2泊3日のキャンプを「サマーキャンプ」と称して実施してきた。現在は、幼稚園からバスで1時間以内の神奈川県愛甲郡愛川町の「愛川ふれあいの村」で実施している。

2006年度は7月18日から20日の間に、年長児63名とスタッフ24名（教職員19名、医師1名、大学生4名）で実施された。

キャンプは、教員1名に対して園児7名のグループで様々な活動を行う。日中は、自然を生かした工作やネイチャーゲームのコーナーを施設内に数カ所設置し、グループで話し合いをしながらコーナーを回る活動（コーナー活動）を中心に、夜は一般のアンサンブルバンドを招いてナイトコンサートやキャンプファイヤーを行った。このキャンプは「ゆっくり、ゆったり」をモットーとし、時間通りにプログラムを進めることに拘らず、園児と話し合い、教員が園児の様子を見ながら、それに合わせて3日間を安全に過ごすようにしている。

表1 サマーキャンプ日程表

1日目	活動	2日目	活動	3日目	活動
		7:00起床		7:00起床	
		7:30朝のつどい		7:30朝のつどい	
		8:00朝食		8:00朝食	
		9:00コーナー活動			
9:45	登園（自主登園）			10:00Free time	
10:30	出発				
11:30	到着			11:30昼食	
	昼食	12:00	昼食		
	散策			12:30	退村式
13:00	入村式			13:00	ふれあいの村出発
		13:15	休息		
	コーナー活動	14:00	お話広場	14:00	到着
15:00	おやつ	15:00	おやつ	15:00	解散
17:00	入浴	17:00	入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:30	ナイトコンサート	19:30	キャンプファイヤー		
21:00	就寝	21:00	就寝		
	スタッフミーティング		スタッフミーティング		

III. 研究目的

本研究は、幼稚園で実施された2泊3日のキャンプが保護者にどのように評価されているかを明らかにし、今後のキャンプ実施に役立てることを目的とする。

IV. 研究方法

H幼稚園の年長児63名の保護者に幼稚園行事に関する意識調査を実施した(2006年9月)。その調査の「サマーキャンプについて」の項目の中から、「キャンプの日数について」、「出発前は心配だったか」の質問と、自由回答項目の「幼稚園教育における宿泊を伴う行事の必要性」「子どもを参加させる前に心配だった理由、心配ではない理由」について分析を行った。

V. 結果及び考察

今回の調査は、年長児保護者63名中56名(回収率88.9%)から回収した。

1. 「幼児教育における宿泊を伴うプログラムの必要性について

宿泊を伴うプログラムの必要性については、「必要」53名(94.6%)、「わからない」3名(5.4%)、「不要」0名であった。

「必要」と回答した理由(表2)は、主に「自立、自主性を養うから」、「貴重な経験になる」、「成長するから」、「その他」に分類できた。この結果は、文部科学省の中央教育審議会スポーツ・青少年分科会が実施した「子どもの意欲・やる気等の向上・低下に係る調査研究成果・事例の収集調査」の結果において、「達成感や成功体験が得られ、自信を持たせる活動」として、キャンプや野外体験活動を上げている事と一致し、幼稚園におけるキャンプでも、同様な効果が期待できる。

表2 幼稚園教育における宿泊を伴うプログラムの必要性

自立、自主性 (全11コメント)
親も子供を思いつつも巣立ちの心の準備が必要。子供も自立が必要。
親から離れ友達とキャンプすることで、自立する心が養われると思う。
自立心を養い、友達同士の連帯感をやしなうのにとってもよい経験になると思います。
子供の自立(精神面、生活面)を後押しするものとなる。仲間と協力して過ごす大切さを学べる。
親と離れる自立心やお友達と過ごす仲間意識は、家庭では経験することの出来ない貴重な行事です。
経験をするから (全7コメント)
やはり親元を離れてお友達や先生と過ごす事は子供にとって、とても貴重な体験だと思う。園以外では結局は「身内のお泊まり」しかできない。
家庭から離れての集団生活は子供達にも刺激になり、たくさんの事を経験できると思います。
絶対に必要であるかはわかりませんが、普段生活をとみにしているお友達と力を合わせながら、親と離れて過ごした経験は、とても貴重だったと思います。友情や自立心、自分にとっての家族という意識、そんな大切な事を心に芽生えさせて頂いた気がします。
お友達とともに、親のいない夜の時間を持つという機会があっても良いと思う。それにより、子供も親も成長、また何か新たな発見につながると思う。
成長するから (全10コメント)
子供自身がいろいろな意味で成長すると思う。
親と離れて精神的な成長が絶対あると思うからです。
精神的な成長が見られことが多いです。年中の1泊2日では、本人が不安な様子がありましたが、2泊3日のキャンプとなると、自分達でどうにかしなくてはと思うのか、洋服の出し入れを考えたり、生活に工夫が見られるようになりました。
親と離れて集団で宿泊することで精神的成長が見られたように思います。
その他
新しい世界を知る良い機会。
集団生活に慣れる為に必要だと思う。
幼稚園を決める時に、お泊まり保育があるかどうかで決めている人に出会い、子供は楽しかったといつまでも思い出に残ると聞いたけど、私にとっての必要性はわからない。

2. キャンプの日数について

H 幼稚園では、年長児の精神面や体力面を考慮し、2泊3日で実施している。それに対して保護者は、46名(93.9%)が「適度」。「長い」「少ない」「わからない」と回答したのはそれぞれ1名(2.0%)であった。この結果から、ほとんどの保護者は2泊3日を適度であると考えている。ちなみに、「キャンプに対するご意見、感想」の自由記述項目で、「親の方が3日以上は心配になって待ってられなくなりそう」との意見もあった。実際、キャンプが終了して幼稚園で再会した時、涙を流すのは親の方が多い。

3. キャンプ実施前の心配する事について

キャンプ実施前に保護者が子どもの事を心配していたかについては、「とても心配だった」と「まあまあ心配だった」を合わせると16名(32.7%)、「あまり心配ではなかった」「全く心配ではなかった」を合わせると33名(67.3%)と予想していたのと逆に心配はしていなかった。その理由(表3)は、心配する理由として、「ケガ、体調面での心配」、「親から離れたことがないから心配」、「友達とトラブルを起こさないか心配」、「排泄に関する心配」に分類できた。逆に心配ではない理由は、「引率者に対する信頼」、「楽しみにしている子どもの様子から」、「宿泊経験があるから」などであった。

ちなみにH幼稚園では、年中児に幼稚園のホールで1泊するプログラムを行い、翌年に2泊のサマーキャンプを行っている。その経験が保護者や子どもたちに心配させないのであろう。

表4は、今年度の年中児と年長児の保護者の X^2 検定を用いた比較を見ると理解できる。年中児の保護者の方が年長児の保護者よりも心配している事が明らかである。

表3 実施前に心配する理由、

ケガ、体調面での不安
ケガ、発熱等が心配。
健康面の心配以外の特になかった。
気候が不安定のため健康面が心配だった。
帰りたいという気持ちが強すぎて体調をこわすのではないかとということ。
1人で身のまわりの事もできていましたので、そういう点では先生にあまりご迷惑をお掛けする心配はないと思いましたが、事故やケガについて少し心配でした。
親から離れたことがないことからの不安
親から離れたことがないので、どうなるかわからなかった。
いつも母親と一緒に寝ていたので、お友達とちゃんと寝れるか少し心配でした。
幼稚園のサマーキャンプ以外、親と離れて泊まったことがないので心配だった。
友達とのトラブルを起こす不安
幼稚園では我慢出来ているような事が、家庭では我慢できず甘えたり、怒ったりする事が多い為、友達と過ごす時間の長いキャンプで、トラブルを乗り越えられるか心配でした。しかし、頑張っで欲しいという期待もありました。
トラブルなしに長時間お友達と過ごせるかどうか。お家に帰りたいと言いついでないか。
排泄に関する不安
夜におねしょをすることがまだあるので。
トイレ面の心配でした。
引率者に対する信頼による安心
日にちが近づくくと本人は少し気弱になりましたが、家庭でできることは練習しておいたので、あとは、幼稚園の全てのスタッフを信頼していたので、保護者は全く心配しておりませんでした。
先生方がたくさんいるので、心配ないと思いました。日常生活から他の学年の先生も、子供をみてくださるのがわかるから。
先生方を信頼していたので。
毎年同じ施設を利用しての為、先生方が慣れているから。医師も同行して頂いているから。
先生方を信頼していますし、園医が同行してくださるので心配はありません。
園医が一緒なので心配がない。すぐに迎えに行ける場所で行われているから。
楽しみにしている子どもの様子を見て安心
年中時に一度経験しており、本人はとても前向きに楽しみにしていた為。
子供自身がサマーキャンプをとっても楽しみにしていた為。
実施前から楽しみにしていたし、親は「ついて来てはダメだよ」と話していたので心配はしていませんでした。
親がいると甘えませんが、いないと思うとしっかりしなければという自覚を持つタイプだと信じているので。
宿泊経験による安心
年長だし昨年1泊経験しているの。
年中時に宿泊を経験していたから。
子供だけでお泊まりしたことがあるから。
年中サマーキャンプを経験しているの。
その他
家庭の教育方針が自主、自立なので宿泊活動には賛成している。

VI. まとめ

本研究は、幼稚園における2泊3日のキャンプに対する保護者の評価を考察したものである。この研究で明らかとなった点は次のようである。

1. 約9割の保護者が宿泊を伴う行事を「必要」と考え、2泊3日の日数についても「適度」とであると回答した。

2. 「必要」な理由は、「自立や自主性が養われる」「貴重な経験」「成長するから」であった。

3. 約3割の保護者はケガや体調面、友達とのトラブルなどを心配していた。残りの約7割の保護者は引率者を信頼している事、出発前に楽しみにしている子どもの姿を見る事、事前の宿泊経験がある事などから心配してはいなかった。

4. 事前に1泊での予行演習などを行っておくと、子どもたちは次のお泊まりを楽しみに迎えることができ、保護者も安心して送り出すことができる。

全体を通して、幼稚園における2泊3日のキャンプについて、保護者は肯定的に捉え、高く評価している事が伺えた。

今回の調査では、保護者側のみに調査を行った。今後は、スタッフ側の評価や、プログラムや運営の検討も行い、幼稚園や保育所での宿泊行事がさらに質が向上するよう探求していきたい。

表4 宿泊前の保護者の心配する年中児保護者と年長児保護者の比較

	とても心配だった		まあまあ心配だった		あまり心配ではなかった		全く心配ではなかった		合計(人)
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
年中児保護者	18	27.7	21	32.3	20	30.8	6	9.2	65
年長児保護者	4	7.1	16	28.6	29	51.8	7	12.5	56

※ $\chi^2=10.71$ $P=0.013$

参考文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会(第36回)資料「子どもの意欲・やる気等の向上・低下に係る調査研究成果・事例の収集調査」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/gijiroku/001/06031401/003.htm
- 2) 飯田稔、1979、「幼児キャンプ参加者の母親の不安に関する研究ーキャンプの効果とキャンプ中の子どもの泣きに関連して」、日本体育学会大会号、30号、pp.187
- 3) 中西雄俊 他、1970、「幼児キャンプに対する親の期待についてー幼児のキャンプ活動に関する考察Iー」、日本保育学会大会発表論文抄録、23号、pp.211-212
- 4) 中川もも 他、2005、「長期・短期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす効果」、野外教育研究、第8巻第2号、pp31-43